

「2018年ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール参加報告書」

京都大学文学部2年 根田大和

私はベトナム史に興味があったため、ハノイはこれ以前にも何度か訪れていた。しかし現地の人々との交流の機会に恵まれた今回は、かつてなく大きく見聞を広めることができたと思う。

忙しい中つきっきりで私たちを案内してくれたベトナム人学生の皆さんは、旅行で街を歩くだけでは分からぬようなことまで聞かせてくれた。体の不自由な人々の生活、ゴミ収集、ペットについての考え方の違いなどが印象的である。

ハノイ西郊・ドウオンラム村へのツアーでは、ベトナムにおいての老いと医療、埋葬習慣、不動産価格等についてのガイドさんのお話が記憶に残っている。人文社会科学大学で聴講した、ベトナムの知的財産権保護やメディアについての授業も、歴史ばかりに対する私の関心を広げてくれた。

またこの研修では、長い昼休みや午後の授業後の時間に思い思いの場所へ行くことができる。私はわがままを言って、空き時間に図書館や古書店へ連れて行ってもらった。人文社会科学大学図書館では、日本にはない本や、ベトナム史関連の学術雑誌の最新号があることに興奮した。人文社会科学大学の学生と書店に行った際には、販売されている中学高校の歴史教科書を手に取り、ベトナム史のことが話題に上がった。チャンパという、かつてベトナム中部に勢力を広げ、今は少数民族として残っている人々についての話になったことがあった。ベトナム人の学生に「それはベトナムの歴史には入らない」と言われたことは、国民国家的歴史観と少数民族について考えるきっかけを私に与えてくれた。

ベトナム語の勉強にもなった。私は東洋史学専修でベトナム史について卒業論文を書くべく、ベトナム語の勉強を始めて半年近くが経っていた。なるべく多くの語彙を頭に入れてあったが、流暢には話せず、ゆっくり正確に発音するのがやっとであった。聞き取りもほとんどできなかった。それでもベトナム人学生の皆さんは、私の遅い話を辛抱強く聞き、分かりやすいベトナム語で答えてくれ、より良い語彙を教えてくれた。

私は以前から、ベトナム国家大学ハノイ校での留学を検討していた。留学先に考えていた大学に訪れ、具体的なイメージが湧いたという点でも、この滞在は私にとって大きな意味があった。

今回私は、何度も訪れたベトナムについてさえ知らないことは多いと痛感した。現地の習慣を知らずにマナー違反を犯していたこともあった。私が今後どのような仕事をするかは分からないが、ベトナム人をはじめ外国人と接することは多いと思う。相手の国の文化習慣、価値観を尊重した付き合いができるようになりたいと思った2週間だった。